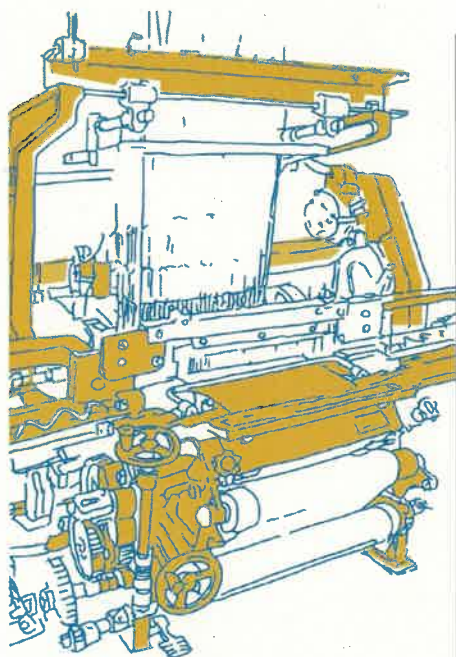
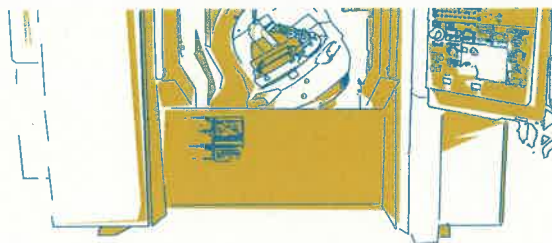
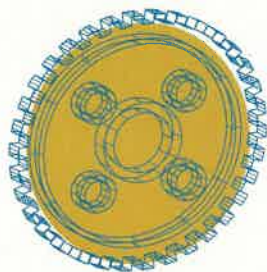
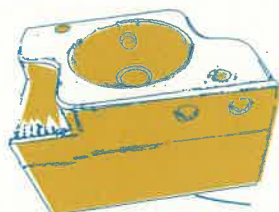




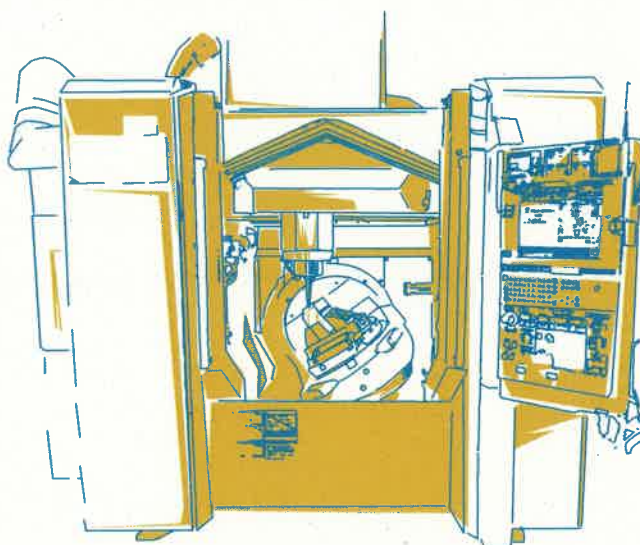
令和6年度 業務概要報告書



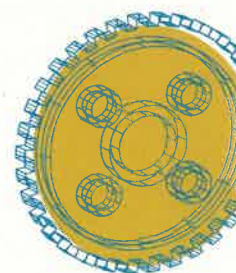
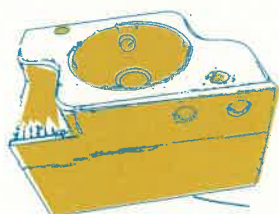
ホームページ



Facebook



Instagram



YouTube

京都府織物・機械金属振興センター

URL: <https://www.pref.kyoto.jp/oriki/>

目 次

第 1	京都府織物・機械金属振興センターの概要	1
1	所在地	1
2	施設	1
3	機構と業務内容	2
4	過去 5 年間の利用状況実績	3
第 2	技術振興対策	4
1	技術支援	4
	(1) 技術相談	
	(2) 依頼試験	
	(3) 機器貸付	
	(4) 新規導入機器	
2	新技術研究	13
	(1) 新技術研究開発	
	(2) 保有特許一覧	
	(3) 展示会出展・学会発表・論文寄稿等一覧	
3	現行織機及び次世代織機への取組	15
4	技術改善相談指導	15
	(1) 技術改善指導	
	ア 織物・機械金属等巡回技術支援事業	
	イ 人権教育・啓発活動支援委託事業うち、巡回相談事業	
	(2) 染色技術相談日の開設	
5	団体等との連携、支援	17
	(1) 丹後テキスタイル・テクノ	
	(2) 丹織技術研究会	
	(3) 丹後ええもん工房	
	(4) 丹後ものづくり産業共創プロジェクト (T-MIC)	
	(5) 公益社団法人京都染織文化協会	

第3 産業活性化支援対策.....19

1 人材の育成.....19

- (1) 研修・講習会
- (2) 公益財団法人京都産業21との連携
- (3) 丹後織物工業組合等関係団体との連携
- (4) 丹後機械工業協同組合との連携
- (5) TANGO 子ども未来プロジェクト推進協議会との連携
- (6) 高校の実習受入
- (7) 丹後地域加工食品品質向上連絡会での活動
- (8) 夏休みものづくり体験教室の実施
- (9) 大学との連携

2 産業活性化事業.....24

- (1) 京都府伝統産業生産基盤支援事業費補助金
- (2) 機料品調達連絡協議会
- (3) 丹後機械金属業振興推進チーム
- (4) 宇宙ビジネス参入研究会

3 情報の提供、発信.....24

- (1) メールマガジン
- (2) ホームページでの発信
- (3) SNS (Facebook、Instagram、YouTube) での発信
- (4) 出前授業・所内見学の受入
- (5) 北近畿経済新聞への研究成果掲載
- (6) 新聞各社への記者発表及び掲載実績
- (7) 京都府庁2号館玄関ロビー展示
- (8) メディアへの出演

おわりに.....27

1 令和6年度丹後地域産業の状況.....27

2 令和6年度当センターの取り組みについて.....29

沿革.....31

第 1 京都府織物・機械金属振興センターの概要

1 所在地

京都府京丹後市峰山町荒山 225 番地（丹後・知恵のものづくりパーク内）

2 施設

建物	延面積	4,183.51 m ²
A 棟	延面積	1,322.03 m ²
B 棟	延面積	2,582.65 m ²
附属建物（物置・倉庫・車庫等）		
	延面積	278.83 m ²

※公益財団法人京都産業 21 から A 棟・B 棟の一部を事務所として使用貸借

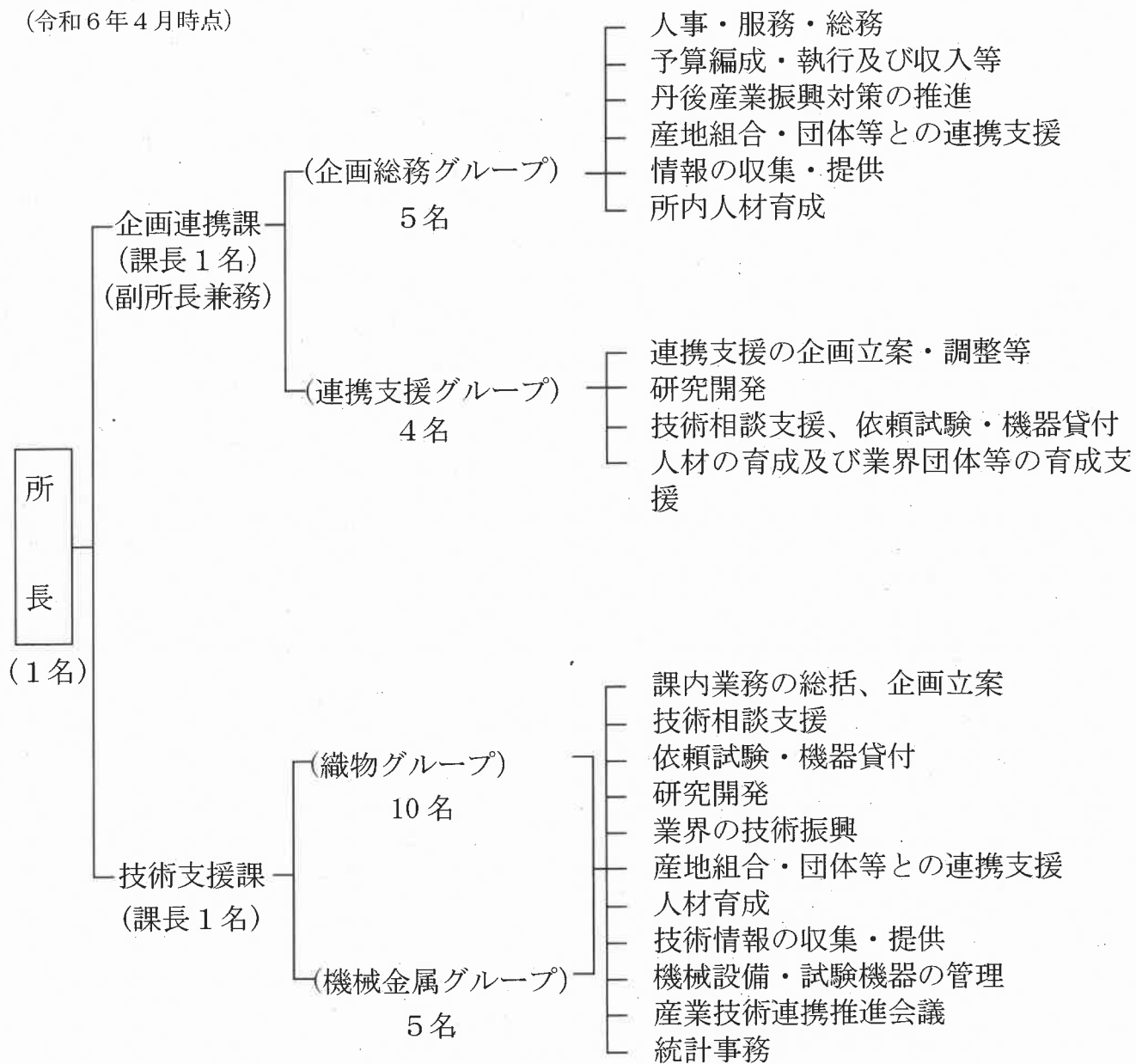
丹後・知恵のものづくりパークの全体概要

- 敷地面積 35,466.22 m²
建物延べ面積 10,933.51 m²（A 棟、B 棟、C 棟、D 棟、E 棟、附属建物ほか）
- 施設の目的
京都府北部地域のものづくり人材の育成や新たな産業興しと中小企業の総合支援を行うための拠点施設
- ゾーニング
 - ① トレーニングゾーン
（基礎から応用に至る人材育成のための研修スペース：B 棟 1 階、C 棟）
 - ② トライアルゾーン
（地元企業が新分野に進出するための事業活動スペース：C 棟、D 棟、E 棟）
 - ③ サポートゾーン
（経営・技術一体の総合支援のためのスペース：A 棟、B 棟 1 階）
 - ④ コラボレーションゾーン
（人材育成、新産業創出のための研修、交流スペース：B 棟 2 階）
- 施設の整備
京都府・京丹後市・公益財団法人京都産業 21 が、日本電産株式会社（現ニデック株式会社）旧峰山工場を活用し共同で整備し、平成 20 年 10 月 23 日にグランドオープン
- 施設の運営
公益財団法人京都産業 21 が日本電産株式会社（現ニデック株式会社）から賃借し、施設全体を管理・運営

3 機構と業務内容

職員総数 27 名

(令和 6 年 4 月時点)



4 過去5年間の利用状況実績

	令和6年度		令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度	
	4,927		4,653		4,800		4,950		5,547	
技術相談件数	織物	3,680	織物	3,613	織物	3,283	織物	3,849	織物	4,036
	機械金属	753	機械金属	335	機械金属	387	機械金属	369	機械金属	374
	連携支援	494	連携支援	705	連携支援	1,130	連携支援	732	連携支援	1,137
	3,553		2,989		2,976		1,830		2,082	
依頼試験件数	織物	3,463	織物	2,792	織物	2,665	織物	1,655	織物	1,886
	機械金属		機械金属		機械金属		機械金属		機械金属	
	連携支援	90	連携支援	197	連携支援	311	連携支援	175	連携支援	196
	2,611		2,151		1,800		1,765		2,045	
機器貸付件数	織物	1,493	織物	1,074	織物	604	織物	861	織物	869
	機械金属	1,081	機械金属	1,049	機械金属	1,157	機械金属	857	機械金属	1,144
	連携支援	37	連携支援	28	連携支援	39	連携支援	47	連携支援	32
	277		201		250		214		249	
企業訪問件数	織物	111	織物	133	織物	198	織物	170	織物	166
	機械金属	92	機械金属	32	機械金属	41	機械金属	38	機械金属	42
	連携支援	74	連携支援	36	連携支援	11	連携支援	6	連携支援	41
	1,442		1,070		958		740		747	
研修会・セミナー 参加人数	織物	559	織物	512	織物	616	織物	470	織物	329
	機械金属	846	機械金属	526	機械金属	331	機械金属	250	機械金属	363
	連携支援	37	連携支援	32	連携支援	11	連携支援	20	連携支援	55
	13,331		5,614							
SNS リーチ数	Facebook	11,278	Facebook	5,026						
	Instagram	2,053	Instagram	588						

第2 技術振興対策

1 技術支援

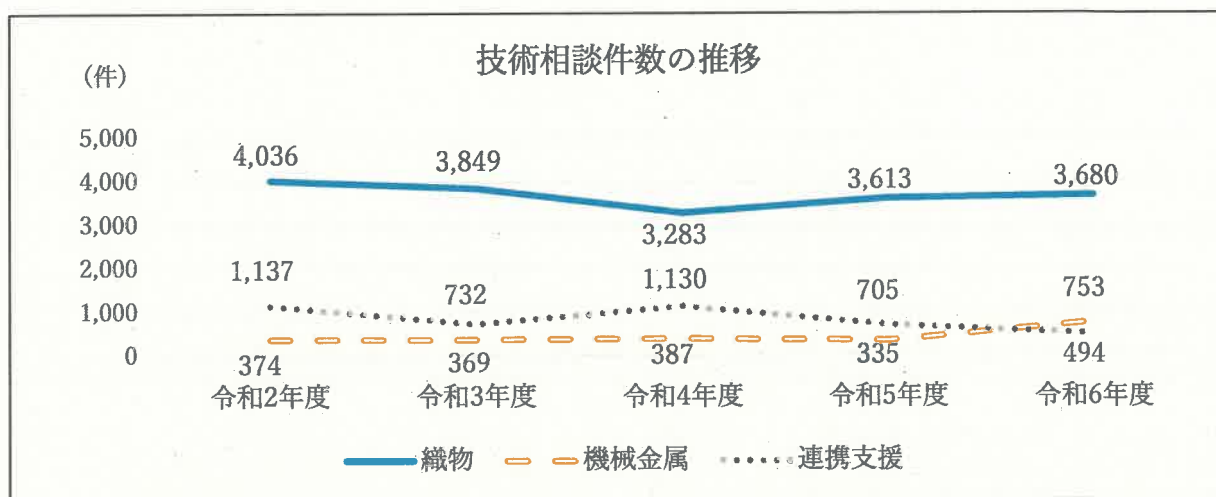
(1) 技術相談

技術相談件数 **4,927 件**

○ 過去実績

令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
5,547	4,950	4,800	4,653	4,927

○ 技術相談件数の推移



○ 技術相談件数実績は、次表のとおりである。(令和7年3月末現在)

(織物) 技術相談内容別件数

(単位：件)

区分内容	令和6年度	構成比(%)	前年度比(%)
織物設計	377	10.2	117.4
製織準備	482	13.1	89.6
撚糸技術	111	3.0	103.7
製織技術	241	6.5	73.7
繊維物性	696	18.9	170.1
製品難点	216	5.9	83.1
精練染色加工	393	10.7	86.8
デザイン	160	4.3	131.1
人材育成	416	11.3	92.7
ブランド振興事業	43	1.2	153.6
研究会等	222	6.0	89.5
補助事業	40	1.1	125.0
その他	283	7.7	88.7
合計	3,680	100.0	101.9

- ・繊維物性：海外販路開拓勉強会により、マーチンデール摩耗試験の相談件数が増加
特許技術「空気の流れを検知する丹後ちりめん」実用化の相談件数が増加
- ・ブランド振興事業：京丹後市オープンファクトリー参加のため、相談件数が増加
商品開発に向けた巡回支援事業が増加

(機械金属) 技術相談内容別件数 (単位：件)

区分内容	令和6年度	構成比(%)	前年度比(%)
機械	206	27.4	132.9
金属材料	18	2.4	112.5
非金属材料	70	9.3	583.3
電気・電子	21	2.8	700.0
生産管理	11	1.5	皆増
人材育成	269	35.7	1415.7
設計・デザイン	49	6.5	612.5
軽易な問い合わせ	43	5.7	39.1
その他	66	8.8	550.0
合計	753	100	224.8

- ・金属材料・非金属材料・人材育成：機械金属業の宇宙分野進出に向けた取り組みにより、件数が大きく増加
- ・非金属材料・設計・デザイン：樹脂加工に関する技術相談及び金型の試作に伴う技術相談が長期にわたり、相談件数が増加

(連携支援・企画総務) 技術相談内容別件数 (単位：件)

区分内容	令和6年度	構成比(%)	前年度比(%)
繊維鑑別	10	2.0	50.0
油脂分試験	30	6.1	50.8
化学分析	28	5.7	466.7
機器分析	67	13.6	58.3
化学試験	62	12.6	33.2
加工試験	24	4.9	64.9
食品製造加工	32	6.5	290.9
環境・省エネ	0	0.0	-
IT 関連	0	0.0	-
産学公連携	16	3.2	400.0
人材育成	3	0.6	皆増
技術情報	20	4.0	166.7
ええもん工房	3	0.6	50.0
補助金	96	19.4	53.9
その他	103	20.9	147.1
合計	494	100.0	70.1

- ・繊維鑑別：繊維鑑別試験及び繊維混用率試験の数が減少
試験数の減少に伴う依頼者とのコミュニケーション機会が減少
- ・化学分析：依頼試験及び機器貸付の利用に伴う相談が増加

- ・化学試験：染色堅ろう度試験数が減少
試験数の減少に伴う依頼者とのコミュニケーションの機会が減少
- ・食品製造加工：企業訪問による食品製造業者からの相談数が増加
- ・産学公連携：大学や近隣自治体との連携推進に伴う増加
- ・人材育成：府外からの相談件数が増加
- ・技術情報：大阪・関西万博に出展する地域企業に対する技術相談件数が増加

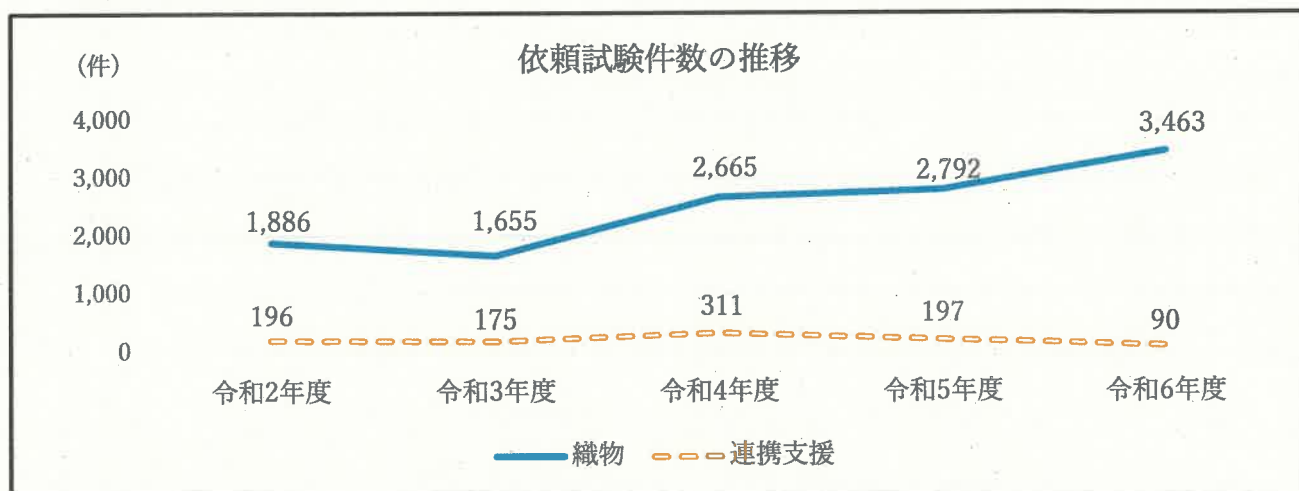
(2) 依頼試験

依頼試験件数 **3,553 件**

○ 過去実績

令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
2,082	1,830	2,976	2,989	3,553

○ 依頼試験件数の推移



○ 依頼試験件数実績は、次表のとおりである。（令和7年3月末現在）

(織物) 依頼試験項目別件数

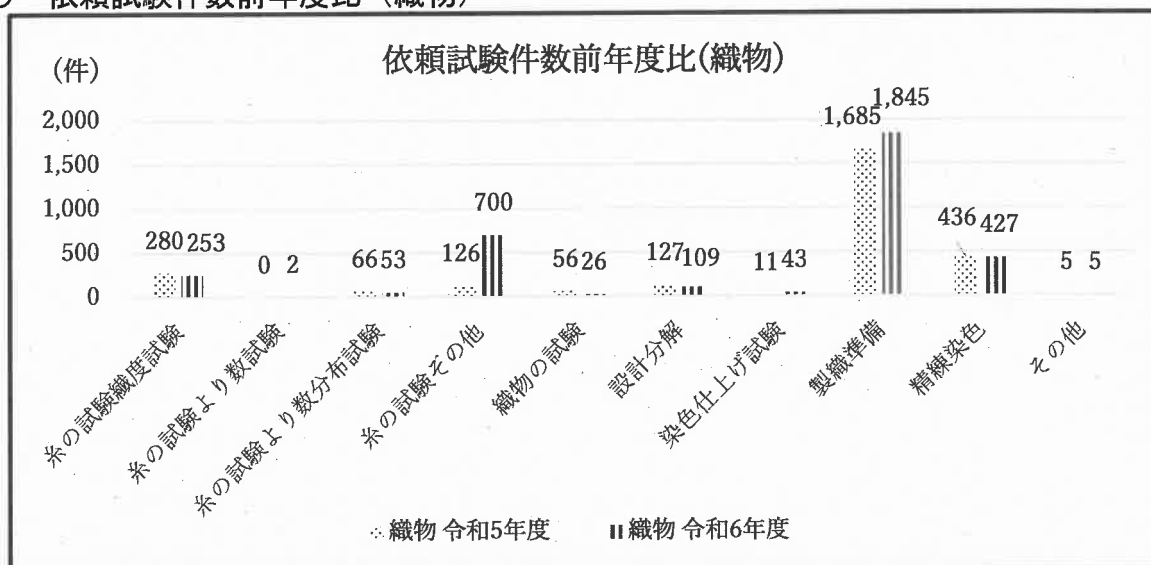
(単位：件)

区分項目		令和6年度		構成比(%)	前年度比(%)
糸の試験	織度試験	253		7.3	90.4
	より数試験	2		0.1	皆増
	より数分布試験	2	53	1.5	80.3
	その他	700		20.2	555.6
織物の試験		26		0.8	46.4
設計分解		109		3.1	85.8
染色仕上げ試験		43		1.2	390.9
製織準備		74	1,845	53.3	109.5
精練染色		145	427	12.3	97.9
その他		5		0.1	100.0
合計		1,359	3,463	100.0	160.1

*左は依頼件数、右は試験件数で計算

- ・糸の試験：紙糸の検尺試験や文化財復元に係る撚糸作成依頼など、丹後地域外の依頼が増加
- ・織物の試験：着尺地やフィルムの物性試験の依頼が減少
- ・染色仕上げ試験：代替インクのパフォーマンス調査のための精練や染色試験の依頼が増加

○ 依頼試験件数前年度比（織物）



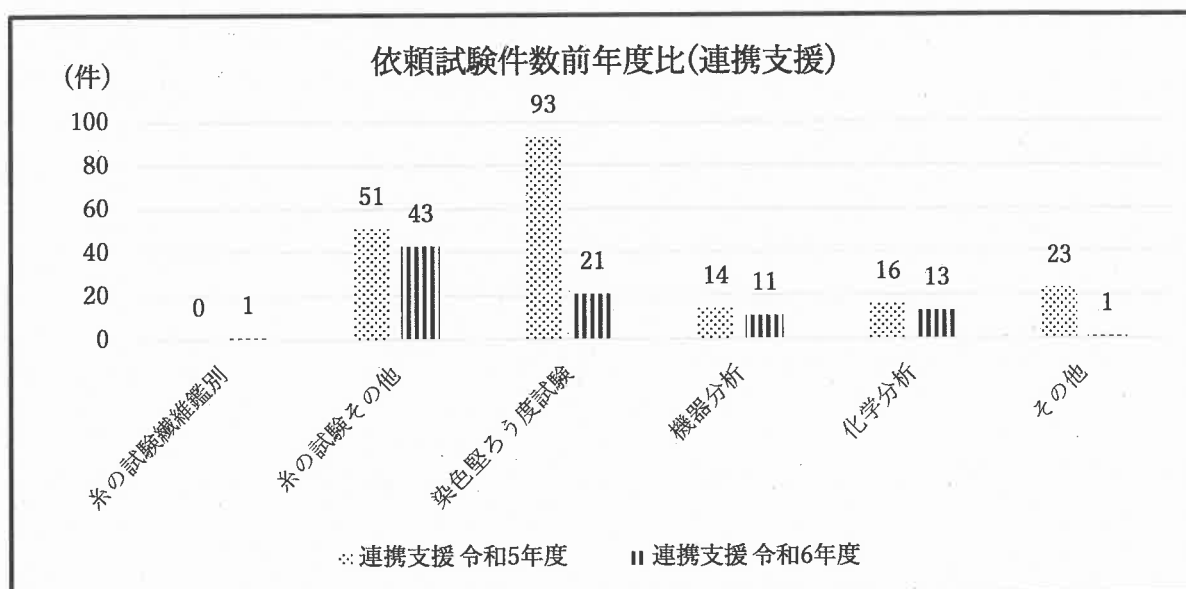
(連携支援) 依頼試験項目別件数

(単位：件)

区分項目		令和6年度	構成比(%)	前年度比(%)
糸の試験	繊維鑑別	1	1.1	皆増
	その他	43	47.8	84.3
染色堅ろう度試験		21	23.3	22.6
機器分析		11	12.2	78.6
化学分析		13	14.4	81.3
その他		1	1.1	4.3
合計		90	100.0	45.7

- ・染色堅ろう度試験：依頼した企業数や1企業あたりの試験数の減少

○ 依頼試験件数前年度比（連携支援）



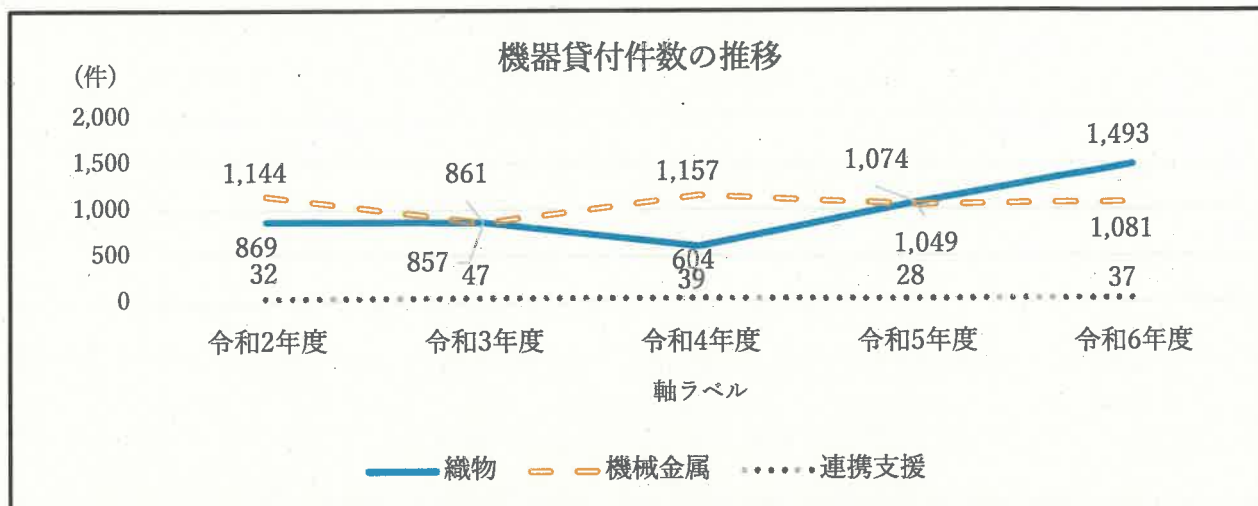
(3) 機器貸付

機器貸付件数 **2,611 件**

○ 過去実績

令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
2,045	1,765	1,800	2,151	2,611

○ 機器貸付件数の推移



○ 機器貸付実績は、次表のとおりである。(令和7年3月末現在)

(織物) 機器貸付項目別件数 (当センター所有の機器を企業が直接利用) (単位: 件)

区分項目	令和6年度	構成比(%)	前年度比(%)
コーンワインダー	22	1.5	31.0
ソフトワインダー	60	4.0	皆増
パーンワインダー	0	0.0	-
合糸機	36	2.4	144.0
ローラーのりづけ機	45	3.0	128.6
八丁撚糸機	543	36.4	724.0
イタリー撚糸機	1	0.1	0.7
カバーリング撚糸機	75	5.0	119.0
合撚機	57	3.8	518.2
ダブルツイスター	0	0.0	-
糸繰機	144	9.6	184.6
かせ揚げ機	67	4.5	皆増
上管巻機	24	1.6	68.6
整経機	0	0.0	-
サンプル整経機	140	9.4	103.7
小幅力織機	48	3.2	160.0
広幅力織機	3	0.2	1.9

テキスタイルデザインシステム	3	0.2	50.0
インクジェット捺染機	2	0.1	200.0
真空スチームセット機	0	0.0	皆減
大型送風乾燥機	0	0.0	－
緯煮槽	28	1.9	41.2
下管巻機	105	7.0	111.7
アレンジワインダー	3	0.2	皆増
テキスタイルオートサンプル織機	0	0.0	－
無判プリントシステム前処理機	0	0.0	皆減
アパレル CAD システム	4	0.3	400.0
スキャナ	4	0.3	400.0
型紙カッティングプロッタ	4	0.3	400.0
職業用高速直線ミシン	14	0.9	87.5
職業用皮革・厚物ミシン	7	0.5	皆増
ロックミシン	2	0.1	66.7
アイロン	0	0.0	－
シルクスクリーン製版機	5	0.3	500.0
スクリーン型乾燥機	10	0.7	500.0
コンプレッサー	5	0.3	500.0
風合い自動計測システム	16	1.1	皆増
糸摩擦抱合力試験機	0	0.0	－
ゴム・プラスチック硬度計（デュロメータ）	0	0.0	－
騒音計	16	1.1	114.3
生糸検査システム	0	0.0	－
合計	1,493	100.0	139.0

- ・服地やインテリア建材、当センターの技術移転での開發生地等の試作のための機器利用が増加
- ・コーンワインダー：帯地の整経準備などに係る機器利用が減少

（機械金属） 機器貸付項目別件数（当センター所有の機器を企業が直接利用）（単位：件）

区分項目	令和6年度	構成比(%)	前年度比(%)
三次元 CAD/CAM システム	0	0.0	皆減
CAE 切削シミュレーションシステム	0	0.0	－
3D プリンタ	0	0.0	－
サポート材除去装置	0	0.0	－
仮想空間 (VR) 対応 CAD 閲覧システム	0	0.0	－
工作機械精度測定システム	21	1.9	420.0
旋盤用アタッチメント	0	0.0	－
工作機械テストバー	0	0.0	皆減
精密レーザー計測システム	0	0.0	－
表面粗さ測定機/輪郭形状測定機	4	0.4	100.0

高性能高さ測定機	840	77.7	100.0
デジタルマイクロスコプ	3	0.3	皆増
CNC 三次元測定機	50	4.6	72.5
プローブ自動交換装置	50	4.6	96.2
高精度 CNC 三次元測定機	4	0.4	80.0
ラインレーザ	3	0.3	300.0
データ解析装置	2	0.2	100.0
測定顕微鏡	1	0.1	4.3
超音波探傷映像化装置	2	0.2	20.0
超音波探傷映像化装置 局所探傷用ユニット	0	0.0	-
赤外線サーモグラフィ	0	0.0	-
マイクロフォーカス X 線 CT システム	31	2.9	387.5
三次元測定機性能評価用セット	0	0.0	-
万能材料試験機(金属材料試験用)	0	0.0	-
万能材料試験機(FRP 材料試験用)	1	0.1	50.0
疲労試験機	0	0.0	-
衝撃試験機	2	0.2	200.0
耐候性試験機	0	0.0	-
粘弾性測定装置	38	3.5	皆増
金属顕微鏡	1	0.1	14.3
ロックウェル硬度計	1	0.1	14.3
全自動マイクロビッカーズ	0	0.0	-
ブリネル硬さ試験機	0	0.0	-
ホットプレス機	0	0.0	-
試料切断機	0	0.0	-
NC 旋盤	5	0.5	125.0
汎用旋盤	0	0.0	-
汎用フライス盤	0	0.0	-
平面研削盤	21	2.0	皆増
ワイヤカット放電加工機	0	0.0	-
3 軸制御立形マシニングセンタ	1	0.1	皆増
5 軸制御立形マシニングセンタ	0	0.0	皆減
卓上大型マッフル炉	0	0.0	-
プログラマブル・ロジック・コントローラ及び付属機器	0	0.0	-
樹脂混合装置	0	0.0	-
デジタルトルクレンチ	0	0.0	-
工作機械危険操作疑似体験システム	0	0.0	-
合計	1,081	100.0	103.1

- ・工作機械精度測定システム：機器のメンテナンス手段として精度測定に機器利用が増加
- ・ラインレーザー：高精度 CNC 三次元測定機による測定物の形状読み取りに機器利用が増加
- ・マイクロフォーカス X 線 CT：社内プロジェクトによる工具試作での機器利用が増加
- ・粘弾性測定装置：シミュレーションに用いる物性データ取得のため材質観察の機器利用が増加
- ・平面研削盤：機器を所有しない企業の加工工程に研削作業が発生したため機器利用が増加
- ・金属顕微鏡、ロックウェル硬度計：課題解決を目的として材料分析の機器利用が減少

(連携支援) 機器貸付項目別件数（当センター所有の機器を企業が直接利用）（単位：件）

区分項目	令和 6 年度	構成比 (%)	前年度比 (%)
ICP 発光分光分析装置	0	0.0	－
液体クロマトグラフ	0	0.0	－
高速液体クロマトグラフ	3	8.1	皆増
顕微赤外分光分析システム	7	18.9	175.0
実体顕微鏡	0	0.0	皆減
pH メーター	0	0.0	－
低温インキュベータ	0	0.0	－
分析走査電子顕微鏡	18	48.6	120.0
蛍光 X 線分析装置	4	10.8	66.7
粒度分布測定装置	0	0.0	皆減
分光光度計(紫外・可視分光光度計)	5	13.5	皆増
ナノバブル発生装置	0	0.0	－
合計	37	100.0	132.1

- ・顕微赤外分光分析システム：製品分析のために丹後地域外の企業の機器利用が増加
- ・分析走査電子顕微鏡：金属製品の表面観察のために新規企業の機器利用が増加
- ・分光光度計(紫外・可視分光光度計)：特定企業が頻度を増やし、機器利用が増加

(4) 新規導入機器

機器名称	機器概要
マーチンデール摩耗試験機	繊維製品の摩耗への強さを判定するための機器。試料布に対して布に一定の荷重をかけて摩擦を繰り返し、生地 of 摩耗による形態変化で評価する。
摩擦試験機	摩擦による繊維の色落ち具合を調べるために使用され、染色堅ろう度試験の摩擦試験を行うために使用する機器。織物の性状を判断・評価する。
顕微鏡デジタルカメラシステム	視野画像をディスプレイへの表示やそのデジタル画像を出力する機能を備えた機器。糸や織物の詳細な状態を評価する。
3D プリンター (FFF 方式)	プラスチックのフィラメント（糸状のもの）を溶かして積み重ねることで立体物を製作する機器。部品・製品の試作等が可能。 (最小積層ピッチ：0.1mm)
水分活性測定装置	食品中で微生物の増殖に関わる水分（自由水）の割合を調査し、測定するために使用する機器。

2 新技術研究

(1) 新技術研究開発

織物・機械金属業界における技術上の諸問題の究明、課題改善に必要な試験研究、新技術の研究開発、新規・新用途の試作開発研究を次のとおり実施した。

また、企業ニーズ、地域ニーズに即応した課題解決型の研究開発を進めるため、外部評価制度（研究開発連絡会議）を設けており、令和7年3月12日に5名の研究開発連絡会議委員による外部評価を実施した。委員からは、「地域企業のために、継続して研究を進めていただきたい」などの意見があった。

研究テーマ		概 要	担当課・グループ
1	丹後ちりめんの用途拡大に向けた素材開発及び事業化の取組Ⅴ	丹後ちりめんの用途拡大に向けて、スマートテキスタイルをテーマとした織物素材及びその用途を開発した。また研究成果について展示会や論文での発表、地元の織物事業者への技術移転や連携した実用化に取り組み、丹後ちりめんの可能性を情報発信した。	技術支援課 織物グループ
2	シルクが持つ機能に関する調査Ⅱ	絹が持つ機能を活かした高付加価値商品の開発に向けて、絹が持つ機能についての特徴や評価方法を文献等を基に調査した。	技術支援課 織物グループ
3	和装の特性を活かした次世代ファッションの事例開発	次世代への丹後ちりめんの需要層拡大のために和装の特性を活かした新製品を企画するプロセスを可視化し、ファッションアイテムを試作した。	技術支援課 織物グループ
4	IoTによる屋内測位に関する研究	現場作業者の各業務に従事する割合を視覚的にわかりやすくすることを目的に、各部署の部屋に設置したセンサーに担当が持つビーコンを反応させることで、屋内のどの場所に在室しているのかを把握するシステムを構築し、基礎的な実証試験を実施した。	技術支援課 機械金属グループ
5	高品質な繭の真空乾燥方法の検討	真空乾燥を用いることで、品質の劣化を抑えた繭の乾燥方法の検討を行った。	企画連携課 連携支援グループ

(2) 保有特許一覧

特許名称	発明者	登録 年月日	消滅予定 年月日	特許の内容	実施契約状況
繊維強化複合体の製造方法	技術支援課 村山 智之 他1名	平成29年 7月14日	令和18年 3月23日	線状の繊維強化複合体を製造するに際して、専用の特殊な機材や資材を必要とせず、製造コストを従来よりも抑えることができ、かつ要求される多様・複雑な成形形状にも柔軟に対応することが可能な繊維強化複合体を容易且つ適切に製造する方法	東海パネ工業(株) 令和6年7月1日～ 令和7年3月31日

空気の流れ検知装置並びにそれを用いた映像・音響システム	技術支援課 徳本 幸紘	令和 5 年 10 月 2 日	令和 25 年 2 月 6 日	軽さと伸縮性を有する織物に導電性糸を取り付け、微かな空気の流れを検知する検知装置並びに、その検知装置を用いて、空気の流れを映像、音響として現出させる映像・音響システム	
-----------------------------	----------------	--------------------	--------------------	---	--

(3) 展示会出展・学会発表・論文寄稿等一覧

名 称	日時・場所	発表者・タイトル	概 要
日本繊維機械学会 第 77 回年次大会	令和 6 年 5 月 30 日 大阪科学技術センタービル	徳本主任研究員 「丹後ちりめんの実際の製造によるシミュレーションの補完」	令和 3～5 年度に実施した、丹後ちりめんのシミュレーションに関する研究について発表を行った。
TANGO OPEN CENTER オープニングセレモニー	令和 6 年 6 月 24 日 丹後織物工業組合	徳本主任研究員 特許「空気の流れ検知装置並びにそれを用いた映像・音響システム」	左記の特許技術を丹後ちりめんに適用したインスタレーションを出展し、用途拡大を目指した。
IVS KYOTO 2024	令和 6 年 7 月 4 日 京都パルスプラザ	徳本主任研究員 特許「空気の流れ検知装置並びにそれを用いた映像・音響システム」	左記の特許技術を丹後ちりめんに適用したインスタレーションを出展し、用途拡大を目指した。
産業技術連携推進会議 ナノテクノロジー・材料部会 繊維分科会 令和 6 年度 繊維技術研究会	令和 6 年 10 月 3 日 十日町商工会議所	鈴木副主査 「繊維等への利用に向けた木材抽出液の機能性（消臭効果）の検討」	令和 5 年度研究「繊維等への利用に向けた木材抽出液の機能性（消臭効果）の検討」について発表した。
DESIGNART TOKYO 2024	令和 6 年 10 月 18 日～27 日 STUDIO KAZ 入船スタジオ	徳本主任研究員 特許「空気の流れ検知装置並びにそれを用いた映像・音響システム」	左記の特許技術を丹後ちりめんに適用したインスタレーションを出展し、用途拡大を目指した。
産業技術連携推進会議 ナノテクノロジー・材料部会 繊維分科会 令和 6 年度デザイン研究会	令和 6 年 11 月 14 日 岐阜県産業技術総合センター	西尾技師 「令和の若者に届ける丹後の新しいテキスタイルデザイン」及びデザイン支援の事例紹介	令和 5 年度に実施した、若年層向けの丹後ちりめん製品をデザインするプロセスに関する研究及びセンターでのデザインに関わる技術相談の事例を紹介した。
BAMBOO EXPO 22	令和 6 年 11 月 20 日～21 日 東京都立産業貿易センター 浜松町館	徳本主任研究員 特許「空気の流れ検知装置並びにそれを用いた映像・音響システム」	左記の特許技術を丹後ちりめんに適用したインスタレーションを出展し、用途拡大を目指した。

日本デザイン学会 第4支部2024年度発表会	令和7年2月28日 京都女子大学	西尾技師 若者をターゲットとした 丹後ちりめんの製品デザイン	令和5年度に実施した、若年層向けの丹後ちりめん製品をデザインするプロセスに関する研究について発表を行った。
京都大学ゼロカーボン バイオ産業創出による 資源循環共創拠点令和 6年度公開シンポジウム	令和7年3月7日 京都大学桂キャンパス	徳本主任研究員 特許「空気の流れ検知装置並びにそれを用いた映像・音響システム」	左記の特許技術を丹後ちりめんに適用したインスタレーションを出版し、用途拡大を目指した。
繊維機械学会誌 月刊せんい	Vol. 77, No. 10 (2024)	徳本主任研究員 「丹後ちりめんの実際の製造によるシミュレーションの補完」	令和3～5年度に実施した、丹後ちりめんのシミュレーションに関する研究について論文を寄稿した。

3 現行織機及び次世代織機への取組

織物未来共創Labと連携し、AI検反装置（織キズ検知システム）の導入に向けて京都市産業技術研究所等の関係機関と連携して支援を実施した。

4 技術改善相談指導

(1) 技術改善指導

生産現場における実態に即応して、各企業が当面する技術的問題の改善と技術水準の向上を図るため、京都府中小企業特別技術指導員及び学界・業界の専門家とともに支援チームを編成し、次のとおり支援を実施した。

技術改善指導件数	16件
----------	-----

ア 織物・機械金属等巡回技術支援事業

実施日	実施場所	支援内容	専門家
令和6年6月20日	与謝野町	製織不良の原因究明と改善策の提示	鈴木 斎志
令和7年2月20,21日	与謝野町	新商品企画について助言	朝比奈 由起子
令和7年3月12日	京丹後市	織機の改良について助言	高倉 章雄
令和7年3月14日	京丹後市	食品製造について助言	安達 修二

イ 人権教育・啓発活動支援委託事業うち、巡回相談事業

実施日	実施場所	支援内容	専門家
令和6年10月18日	京丹後市	製織不良の原因究明と改善策の提示	鈴木 斎志
令和6年10月23日	京丹後市	製織不良の原因究明と改善策の提示	鈴木 斎志
令和6年11月6日	京丹後市	新分野進出（宇宙分野）について助言	山北 晃久
令和6年11月21日	与謝野町	製織不良の原因究明と改善策の提示	平田 好宣
令和6年12月20日	京丹後市	新分野進出（宇宙分野）について助言	山北 晃久
令和7年1月15日	京丹後市	商品開発のための縫製技術について助言	白敷 持治子
令和7年1月22日	京丹後市	新分野進出（宇宙分野）について助言	山北 晃久

令和7年1月22日	与謝野町	新分野進出（宇宙分野）について助言	山北 晃久
令和7年1月22日	与謝野町	商品開発のための縫製技術について助言	白敷 持治子
令和7年1月29日	与謝野町	商品開発のための縫製技術について助言	白敷 持治子
令和7年2月4日	京丹後市	製織不良の原因究明と改善策の提示	鈴木 斎志
令和7年2月5日	与謝野町	商品開発のための縫製技術について助言	白敷 持治子

○ 京都府中小企業特別技術指導員（専門指導分野）

（織物）

氏 名	分 野	氏 名	分 野
鈴木 斎志	（機 織）	平田 好宣	（機 織）
嶋津 澄子	（染 色）	堤 健蔵	（染 色）
西村 太良	（繊維工学）	大和 文昭	（製品企画）
朝比奈由起子	（商品企画）	山田 英二	（繊維加工）
一田 昌利	（蚕糸技術）	和田 忍	（織物技術）
能口 祥子	（色 彩）	吉田 有香	（商品開発）
松川 恵一	（デザイン）	木村 照夫	（複 合 材）

（機械金属）

氏 名	分 野	氏 名	分 野
大貫 信彦	（新商品開発）	高倉 章雄	（塑性工学）
大柳 邦夫	（切削加工）	西郡 榮	（鍛 造）
北村 憲彦	（鍛 造）	井原 之敏	（機械加工）

（2）染色技術相談日の開設

- ・開 催 日 数 年間 43 日
- ・内 容 染色デザイン、染色加工技術に関する相談指導
- ・相談指導者 当センター職員
- ・参 加 者 延 232 名

5 団体等との連携、支援

(1) 丹後テキスタイル・テクノ

丹後産地の織機調整技能士9名で組織する同団体の研究会及び後継者育成のための織機調整研修に協力した。

研究会開催数	3回
--------	----

○ 講師派遣実績

日 時	研修名	場 所
令和6年9月27日	第1回力織機研修	当センター
令和7年2月28日	第2回力織機研修	京都市産業技術研究所

(2) 丹織技術研究会

今後のものづくり体制のあり方を検討するために、当センターが行った機料品（ピッカー及び通糸）の代替品の開発成果品の実用化に向けた耐久性の評価、細幅織物用シャトル織機の製造を行う企業との意見交換会の開催等、産地生産基盤支援に関する事業について協力した。

(3) 丹後ええもん工房

「オープンファクトリー」に係る工房体験、見学に関するブラッシュアップについての勉強会を2回、「Kyoto Crafts Exhibition DIALOGUE 2025」出展に係る、ディスプレイについての勉強会を2回開催した。

○ 「オープンファクトリー」に係る勉強会

第1回勉強会

- ・開催日 令和6年8月28日
- ・内 容 オープンファクトリーについて
- ・講師 観光ビジネス総研（株） 刀根 浩志
- ・参加工房 6工房

第2回勉強会

- ・開催日 令和6年12月12日
- ・内 容 デジタルスタンプラリー等の検討
- ・講師 観光ビジネス総研（株） 刀根 浩志
- ・参加工房 6工房

○ 「Kyoto Crafts Exhibition DIALOGUE 2025」出展に係るディスプレイ勉強会

第1回勉強会

- ・開催日 令和6年12月11日
- ・内 容 ディスプレイについて
- ・講師 etalagiste 中島 彌生
- ・参加工房 4工房

第2回勉強会

- ・開催日 令和7年1月20日
- ・内容 ディスプレイについて
- ・講師 etalagiste 中島 彌生
- ・参加工房 5工房

(4) 丹後ものづくり産業共創プロジェクト (T・MIC)

地域の基幹産業である織物業と機械金属業が連携して取組む動きの一環として、宇宙環境で着用するシルク織物の衣類・生地及び取扱企業のPR活動に協力した。

(5) 公益社団法人京都染織文化協会

公益社団法人京都染織文化協会が取り組む「復元衣装」の織物設計について協力した。

第3 産業活性化支援対策

1 人材の育成

(1) 研修・講習会

○ 研修参加人数

研修会参加人数	1,442名
(織物研修)	(559名)
(機械金属研修)	(846名)
(連携支援研修)	(37名)

(織物)

(延人数(単位:名))

○ ひとづくりコース				
名 称	開催月日	テ ー マ	講 師	受 講 者
織物基礎	令和6年 5月7日 ～令和7年 3月11日	試験を交えながらの糸の扱い方や 織物製造について	当センター 主任研究員 新池 昌弘	23
製織準備【整経】	令和6年 6月19日 ～8月7日	部分整経機を使用した整経方法に ついて	当センター 主任研究員 新池 昌弘	22
製織準備【たて継ぎ (手つなぎ)】	令和6年 6月12日、 13日	たて継ぎ(手つなぎ)の作業方法に ついて	当センター 専門幹 荻野 宏子	8
製織準備【たて継ぎ (機械つなぎ)】	令和6年 10月29日 ～11月12 日	たて継ぎ機を利用した機械つなぎ の作業方法について	職業訓練指導員 塩見 晋	8
製織【後染織物】	令和6年 4月15日 ～12月17 日	後染織物の製織準備作業から織機 操作方法について	当センター 専門幹 荻野 宏子	91
製織【先染織物】	令和6年 6月18日 ～8月27 日	先染織物の製織準備作業から織機 操作方法について	府中小企業特別技術 指導員 平田 好宣	48
織物組織と紋織技術	令和6年 8月5日 ～11月26 日	織物組織と機拵えの関係、紋デー タ作成方法について	京都職業能力開発短 期大学校 加畑 満久	95
織物分解	令和6年 6月4日 ～7月5日	糸の種類、より数など織物分解に 必要な基礎的な手法について	当センター 副主査 吉岡 和真	19
織機調整【小幅基礎】	令和6年 9月26日 ～11月28 日	小幅シャトル織機の製織に必要 な調整方法について	丹後テキスタイル・ テクノ会員	36

織機調整【広幅基礎】	令和6年 12月12日 ～12月19日	広幅レピア織機の保全・点検について	有限会社藤田機料商店 藤田 和生	6
アパレル CAD	令和6年 9月9日 ～10月2日	型紙作成に必要な知識とアパレル CAD ソフトの操作方法について	エイプロス株式会社 米重 美希	17
デザイン	令和6年 11月25日 ～12月11日	図案作成ソフトを使った織柄、染色柄、販売促進ツールのデザイン手法について	当センター 技師 西尾 綾香	32
現場実践研修	令和6年4月 26日 ～10月31日	企業の現場に赴いた座学、実技の研修	府中小企業特別 技術指導員 平田 好宣 他	8
現地セミナー	令和7年 3月4日	作業効率化や業務効率化のシステムを導入している企業等を訪問	播州織工業組合、植山織物株式会社	13
小計 14 コース				426
○ ものづくりコース				
名 称	開催月日	テ ー マ	講 師	受 講 者
新商品開発【縫製】	令和6年 7月24日 ～12月18日	縫製に必要な型紙作成の手法について	白敷 持治子	109
新商品開発【ものづくり&機器活用】	令和6年 11月20日 ～令和7年 3月5日	当センターの保有機器を使用した新商品開発の取組について	当センター 副主査 小松 亮介他	24
小計 2 コース				133
合計 16 コース				559

(機械金属)

(延人数(単位:名))

名 称	開催月日	テ ー マ	講 師	受 講 者
機械製図基礎 (LEVEL00)	令和6年 4月10日、 11日	図面の読み取りに必要な基礎知識の習得	株式会社ラブノーツ 山田 学	40
測定工具基礎	令和6年 4月12日、 15日	測定工具の基礎的な使用方法等の基礎知識の習得	府中小企業特別 技術指導員 大柳 邦夫	30
NCプログラム基礎	令和6年 4月19日、 22日	NC プログラムの作成に関する基礎知識の習得	府中小企業特別 技術指導員 大柳 邦夫	18
NC旋盤基礎	令和6年 4月26日、 5月10日	NC 旋盤の基本的操作や加工に必要な設定等の基礎知識の習得	府中小企業特別 技術指導員 大柳 邦夫	16

VR を活用した危険体験学習	令和6年 4月11日	VR を用いた工作機械の基本的操作や 事故体験による危険学習	当センター 主任研究員 村山 智之他	8
二次元 CAD 基礎講座	令和6年 4月24日、 25日	二次元 CAD を用いた設計の基礎技術 の習得	ヨシカワメイト株式会社 鈴木 浩貴	5
三次元 CAD 基礎講座	令和6年 5年14日、 15日	三次元 CAD を用いた設計の基礎技術 の習得	ヨシカワメイト株式会社 鈴木 浩貴	6
三次元 CAM 基礎講座	令和6年 5月8日、 9日	三次元 CAM を用いた機械加工プログラムの作成技術の習得	株式会社 Ai ソリ ューションズ 山下 慶介	10
金属材料基礎講座	令和6年 5月7日	金属材料の基礎知識の習得	当センター 主任研究員 村山 智之他	9
安全衛生	令和6年 4月16日、 23日、30日	安全管理・減が改善の基礎知識の習得	京都職業能力開 発短期大学校 湯浅 幸敏	44
I o T 技術基礎	令和6年 5月1日	小型コンピューターを用いた制御技 術の学習	舞鶴電脳工作室合同会社 代表社員 町田 秀和	7
機械製図講習会 (LEVEL0→1)	令和6年 5月21日、 22日	図面の描き方・表し方、寸法公差図面 の描き方の習得	株式会社ラブノーツ 山田 学	16
機械製図講習会 (LEVEL2)	令和6年 6月5日、 6日	幾何公差の基本（考え方・種類・使い 方等）の習得	株式会社ラブノーツ 山田 学	30
表面粗さ・輪郭形状測 定機講習会	令和6年 7月3日	表面粗さ・輪郭形状測定の基礎的事項 に関する講義と操作実習。測定技術の 基本を学ぶ。	株式会社ミットヨ 横畠 伸明	7
CNC 三次元測定機 講習会	令和6年 7月4日、 5日、11日 、12日	CNC 三次元測定機の基本から自動測定 プログラムの作成・実行までの講習及 び実技	株式会社ミットヨ 三浦 和昌	12
3 軸マシニングセンタ 講習会（基礎編）	令和6年 9月6日、 13日	3 軸加工機の基礎的な NC プログラム の作成方法と注意点について	京都職業能力開 発短期大学校 藤原 力	8
3 軸マシニングセンタ 講習会（実習編）	令和6年 9月20日、 27日	課題図面からの NC プログラム作成と 加工前の段取り作業及び加工実習	京都職業能力開 発短期大学校 藤原 力	8
航空・宇宙進出 支援技術セミナー	令和6年7 年18日	NC 工作機械全般に関する基礎知識の 習得	公益財団法人新産業 創造研究機構 山北 晃久	40

Excel マクロ・VBA 活用セミナー（入門）	令和7年 1月9日、 16日	社内業務の改善を目的とした業務シ ステム開発学習に関する基礎知識の 習得	京都職業能力開 発短期大学校 加畑 満久	6
Excel マクロ・VBA 活用セミナー（活用）	令和7年 1月23日、 30日	システムに関する設計・開発支援の応 用技術の習得	京都職業能力開 発短期大学校 加畑 満久	6
産業人材育成基礎 講座（工業材料） ※ 中丹技術支援室共催	令和6年 6月5日 ～9月19 日	自社独自の装置・システム開発に取り 組む京都北部地域の企業実例の解説	日東精工株式会社 坂本 大和 他4名	480
（その他3コース）	令和6年 8月21日 ～12月6 日	新任職員向けものづくり基礎研修（京都産業21） 京丹後市商工会向け地域機械金属業勉強会 峰山高校実習授業への協力（1、3年生）	当センター 主任研究員 村山 智之 他	計 145
合計（高校実習除く） 23 コース				846

（連携支援・その他）

（延人数（単位：名））

名 称	開催月日	テ ー マ	講 師	受 講 者
食品品質向上セミナー （食を強くするブラン ドづくり）	令和6年 10月2日	地域におけるブランドづくりの方向性 を、技術的な要点とともに、調査データ と実践例を交えながら講演	静岡県立大学 岩崎 邦彦	37
合計 1 コース				37

(2) 公益財団法人京都産業 21 との連携

公益財団法人京都産業 21 北部支援センターとの連携のもと、企業訪問等を通じて把握した企業のニーズや課題に基づき、40 コースの研修を共催した。

(3) 丹後織物工業組合等関係団体との連携

産地の課題である人材確保、技術継承を目的に、関係機関等と連携して、織物の基礎から製織準備、織機調整等の人材育成研修を実施した。

(4) 丹後機械工業協同組合との連携

機械金属事業者のニーズに対応した「新任者向け技術研修」を開催する他、人材育成研修を行うとともに、宇宙分野進出に向けたセミナーを開催し、市場の成長性や今後の見込みの解説を行う等、地域産業の発展に向けた取り組みを実施した。

また、青年部とも連携を深め企業訪問等を通じて課題の聞き取りに努めた。

(5) TANGO 子ども未来プロジェクト推進協議会との連携

丹後機械工業協同組合及び丹後教育局とともに、将来の丹後の機械産業を担う人材育成を図ることを目的として、TANGO 子ども未来プロジェクト推進協議会に参画し、出前授業、見学受入等を行った。

出前授業受講者数 72名

(単位：名)

学校名	内 容	受講者数
1 大宮中学校	「丹後の機械金属産業の世界を知ってみよう」	72

(6) 高校の実習受入

地域の高校の実習を受け入れた。(1、3年生)

高校等実習受入者数(延べ人数) 105名

※ 地域の高校1、3年生を延べ12日間受け入れ

(7) 丹後地域加工食品品質向上連絡会での活動

令和元年に商品開発、加工技術の向上及び販路開拓の支援を目的に設置された 丹後地域加工食品品質向上連絡会(公益財団法人丹後地域地場産業振興センター他7団体で構成)の構成員として、研修事業を実施し、今後の事業計画を検討した。

研修参加者数 37名

(8) 夏休みものづくり体験教室の実施

丹後地域の小学生を対象に、子どもたちの織物業・機械金属業への関心、興味を深め、次代を担う人材の育成と確保につながるよう、8月3日にものづくり体験教室を実施した。

体験教室参加者数 66名

(9) 大学との連携

9日間にわたり、1名の大学生インターンを受入れた。(3年生)

また、京都工芸繊維大学で実施する地域創生 TechProgram に参加する3名の大学生を2月間にわたり受入れ、課題や資料の提供に協力した。

大学生受入者数 4名

2 産業活性化事業

(1) 京都府伝統産業生産基盤支援事業費補助金

伝統と文化のものづくり産業の生産基盤を支えるため、生産設備の新設、増設、更新又は改修及び道具類の購入を支援した。

補助金交付件数	51 件
補助金交付額	19,505 千円

(2) 機料品調達連絡協議会

丹後・西陣の機料品店や産地組合等で組織する協議会において、安定的な調達を目指した共同仕入れ等の仕組みを試行した。その結果、令和6年度は計6件の申請があった内2件の案件が成立した。

また、スケールメリットを生かすため、新たに博多・桐生産地の機料品店及び両産地組合とも意見交換を実施した。

(3) 丹後機械金属業振興推進チーム

令和5年2月に丹後地域の基幹産業である機械金属業の継続的な発展のため、新分野への進出・販路開拓等の検討を目的に、丹後機械工業協同組合、公益財団法人京都産業21、京丹後市、丹後広域振興局、商工労働観光部産業振興課、織物・機械金属振興センターで発足した。

令和6年度は令和7年3月までに8回チーム会議を開催し、各機関で取り組みを進めるとともに、令和6年12月19日には「丹後 SPACE VISION シンポジウム 2024」を開催し、宇宙分野の現状や最新の取り組みを講演した。(103名参加)

また、当センターでは新分野参入を促進するため「航空・宇宙産業進出支援技術セミナー」を開催し、宇宙・航空産業に関する情報提供を行った。(40名参加)

(4) 宇宙ビジネス参入研究会

宇宙分野進出に向け、分野への参入活動や情報収集を希望する丹後地域の中小機械金属業を中心に令和6年10月に立ち上げた。(13社14名)

主な活動は、専門家が研究会参加企業へ訪問し、新分野参入に向けた企業の強みや課題等を発見する「企業調査」(4回:4社)、既に宇宙分野で活躍する先進企業への視察や関連展示会への参加による「参入活動」(1回:9社11名)、宇宙分野で扱われる難削材の加工をテーマにした勉強会による「トライアル」(1回:7社10名)に取り組み新分野に向けた企業支援を実施した。

3 情報の提供、発信

(1) メールマガジン

公益財団法人京都産業21 北部支援センターと連携し、市況調査結果のほか技術情報や各種事業・支援制度などを掲載したメールマガジンを定期的に発行(送信先:645アドレス)し、産地内外の関係業者、支援機関等に発信した。

E-mail oriki-kikakurenkei@pref.kyoto.lg.jp

メールマガジン配信回数	40 回
-------------	------

(2) ホームページでの発信

ホームページを通じて、当センターの事業や管内の織物業や機械金属業の情報をタイムリーに発信し、内外との情報交流を図った。

URL <https://www.pref.kyoto.jp/oriki/>

(3) SNS (Facebook、Instagram、YouTube) での発信

研修への参加及び保有機器の積極的な利活用を促すこと等を目的に、令和5年度に Instagram と YouTube を開設し、丹後・知恵のものづくりパークが実施する研修やセミナー等の情報、当センターが保有する機器の紹介や研究事業のお知らせなどを配信した。

また、YouTube チャンネルでは、織物の生産工程や丹後ちりめんの性質等が分かる動画を配信した。

SNS リーチ数	13,331
(Facebook)	(11,278)
(Instagram)	(2,053)

YouTube 再生回数	17,799 回
--------------	----------

(4) 出前授業・所内見学の受入

地元小学生に対して、出前授業を6校、所内見学6校など、延べ351名の出前授業・所内見学を受け入れた。

出前授業・所内見学受入人数	351 名
---------------	-------

(単位：名)

	学校名	内容	参加人数
1	島津小学校	織物についての見学	11
2	橘小学校	「丹後の織物産業の世界を知ってみよう」(出前授業)	15
3	大宮第一小学校	織物についての見学	82
4	峰山小学校	織物についての見学	15
5	大宮南小学校	織物についての見学	11
6	加悦小学校	染色体験	43
7	高龍小学校	染色体験	18
8	いさなご小学校	染色体験	40
9	いさなご小学校	織物についての見学	40
10	長岡小学校	織物についての見学	9
11	網野南小学校	「丹後の織物産業の世界を知ってみよう」(出前授業)	24
12	岩滝小学校	染色体験	43

(5) 北近畿経済新聞への研究成果掲載

北近畿経済新聞購読者(発行部数 約36,000部(約3,000部/回))に研究成果を周知、事業への活用を促した。

掲載件数	12 件
------	------

(6) 新聞各社への記者発表及び掲載実績

新聞各社への記者発表や新聞各社からの取材受入による当センター事業の周知を図った。

新聞掲載件数	4 件
プレスリリース件数	10 件

(7) 京都府庁 2 号館玄関ロビー展示

8 月 15 日～19 日の 5 日間、パネル展示による当センター事業の周知を図った。

(8) メディアへの出演

α ステーション（ラジオ）出演や京丹後市ケーブルテレビの取材を受入れ当センター事業の周知を図った。

おわりに

1 令和6年度丹後地域産業の状況

○ 織物業

令和6年の丹後ちりめん白生地の生産量は、約13.2万反（対前年比90%）であり、新型コロナウイルス感染症の影響がなかった令和元年比では52%と約半分の生産量になっている。また、公益財団法人京都産業21北部支援センターの調査（令和7年1～3月）によると、現在の景況感（DI値）は-45で、前回（令和6年1～3月調査）と同様のポイントであり、引き続き、エネルギーや原材料価格の高止まり、和装を取り巻く構造的不況等で厳しい状況が続いている。

また、従事者の高齢化やこれに伴う技術継承、織機や機料部品の老朽化など産地の生産基盤の衰退が危惧されている。

一方、丹後織物工業組合ではオープンファクトリーとショップを備えた「TANGO OPEN CENTER」をオープンし、流通業者からデザイナーやユーザーまでが訪れたくなる産地の実現を目指す取組を行っている。また、インテリアやハイファッション市場等新分野への進出、オープンファクトリーや工場へのショールームやカフェの併設等、新たな手法で販路開拓を目指し、高付加価値化への展開に成果が出始めている事業者がある。

引き続き、高度な技術を活かして多種多様な織物素材を提供できるテキスタイル産地へ転換するとともに、足下の生産基盤の維持に向けた人材育成や機料品の安定調達の実現を推進することが重要である。

○ 機械金属業

丹後機械工業協同組合の令和7年3月の景況調査によると、景況感（DI値）は前二期まで上昇傾向にあったが、今回再び大きく下がる結果となった。

1年前比較の受注量では減少を示す企業が全体の61%に上り、3カ月前の比較でも全体の50%が受注量の減少と回答している。特に1～4人、5～19人規模の企業が受注量の減少を回答している。

また、組合としても景況悪化の要因を特定できず今後も同様の景況感が続く見通しを予測している。

従業員数についても全体の25%が人員不足と回答しており、規模別にみると受注量が比較的多い20～49人規模の企業に不足感が目立っている。

さらに、鋼材材料および副資材価格もまだ令和3年以降上昇を続け、価格が高止まりしており、製造原価の押上は続いている。

このような状況を踏まえ、時代の流れに適応した経営体質の改革や新分野への展開などといった企業の持続に向けた取り組みがより重要となっている。

雇用については、少子化に加え若者の地域外への流出等により、地域企業における人材確保・担い手育成等の課題が深刻化しており、地域一体で取り組む必要があることから、地域企業では燃料電池の分野に向けた製品開発や宇宙分野に向けた参入活動に加え海外からの留学生受け入れを目的としたオープンファクトリーへの参加など課題解決に向けた独自の取組も活発になった。

○ その他の地域産業

丹後地域の製造業においては、京都北都信用金庫の景況調査によると、令和7年3月調査での景況感（DI値）は-44.1であり、前年3月調査での-35.0よりも低下した。

丹後地域には、企業での高度な化学技術や海や里の豊かな食材があることから、織物業や機械金属業以外の地域産業においても、産学公の連携を行いながら技術的な支援をすることによって、丹後地域の化学技術や食材を生かす取り組みを推進していくことが必要な状況にある。

2 令和6年度当センターの取り組みについて

丹後地域はものづくり産業として「織物業」や「機械金属業」が根付いており、「京都府総合計画（令和4年12月改定）」では、丹後の強みである「ものづくりの伝統技術」、「魅力あふれる歴史文化」を生かした地域づくりを戦略的に取り組むこととしている。

当センターでは、総合産地化・高付加価値化に向けた新技術・新商品開発や新分野への進出や新産業の創出を目指した取組など、府北部地域のものづくり産業を公益財団法人京都産業21北部支援センターと一体となって支援し、総合的な活性化対策を推進してきた。

○ シルクテキスタイルの世界的な産地の形成に係る取組（産業創造リーディングゾーン）

織物業においては、世界から注目されるテキスタイル産地の形成を目指し、販路開拓・新商品開発の取組を支援するとともに、生産基盤の維持や新商品開発に関する人材育成研修の実施、織機等の生産設備の更新や改修の支援に取組んできた。西陣織、京友禅、丹後織物の三産地が連携する「シルクテキスタイル・グローバル推進コンソーシアム」の取組では、インテリア市場、ハイファッション市場へ進出するための販路開拓支援等を実施した。

また、「クリエイター・イン・レジデンス（CIR）事業」では、海外のインテリアメーカーと丹後・西陣の事業者の連携を強化し、マーチンデル摩耗試験機の導入により織物素材の開発を推進する態勢を整えた。加えて、丹後・西陣の機料品店や産地組合等で組織した「機料品調達連絡協議会」で、安定的な調達を目指した共同仕入れの試行や、スケールメリットを生かすため新たに博多・桐生産地とも意見交換を実施した。

○ 機械金属業に向けた新分野（宇宙産業）等への取組

機械金属業においては、事業者の慢性的な人材不足への対応のため、就労者の技術の習得やスキルに応じた技術力向上を目的としたセミナー・講習会等を開催し、特に4月初旬から、新任者を対象とした技術研修で機械金属に必要な基礎知識や実習を通じて即戦力に向けた育成を行ってきた。

加えて、将来の丹後機械金属業を見据えた取組として令和5年2月に「丹後機械金属業振興推進チーム」を設立したところである。

宇宙分野への進出にあたり業界の成長性や受注に向けた必要事項等を解説する「航空・宇宙進出支援技術セミナー」を開催し、宇宙分野への進出に向けた情報提供を行うとともに、丹後地域機械金属業を中心として令和6年10月には、「丹後宇宙ビジネス参入研究会」を設置し、企業調査、参入活動（企業視察）及び新分野の業界で取り扱われる材料をテーマとした勉強会の活動を行い宇宙分野への進出に向けた取り組みを開始した。

また、地域の高校と連携した実習授業をはじめ、出前授業や見学を積極的に受け入れ、時代を担う人材確保に努めるとともに、支援機関側の連携として、各市町商工会担当者を中心に地域機械金属業の支援に必要な機械金属業の基礎知識をテーマとした学習会を開催した。

○ 化学・食品分野への支援に係る取組

織物業や機械金属業以外の地域産業においては、化学の専門的情報、試験技術及び分析機器を使って、丹後地域を支える企業に対して技術相談、依頼試験、機器貸付及び研究を通じて技術的支援を行ってきた。

化学分野については、高度な化学技術を使ったものづくりを推進するために、企業や大学と連携をとることによって、化学の専門的情報、試験技術及び分析機器を更新した。

食品分野については、地域の海や里の豊かな食材を生かすために、食料品製造業者からの聞き取りを踏まえて水分活性測定装置を導入することによって、依頼試験や機器貸付による支援体制を強化すると

ともに、丹後地域の食料品製造業者の知識の向上のために、公益財団法人丹後地域地場産業振興センターと連携することによって、食を強くするブランドづくり研修を大学から専門家を招いて開催した。

沿 革

明治 38 年 9 月	「京都府織物試験場」の設置が決定
明治 39 年 2 月	中郡吉原村（現 京丹後市）に「京都府織物試験場」を開設、業務開始
昭和 2 年 3 月	奥丹後大震災により建物全壊
昭和 3 年 8 月	建物及び諸機械・設備の復興が完了、業務再開
昭和 31 年 10 月	与謝郡野田川町（現 与謝野町）に技術員駐在所を設置
昭和 40 年 11 月	創立 60 周年記念事業実施
昭和 41 年 6 月	組織変更（振興課、技術課に加え経営指導課を設置、総合指導機関に再編）
昭和 43 年 7 月	中郡峰山町丹波（現 京丹後市）に改築移転 組織変更（技術課（技術指導係、試験研究係）、経営課（総務係、経営指導係）の 2 課 4 係制に再編）
昭和 43 年 9 月	皇太子同妃殿下（現上皇上皇后両陛下）が当场を御視察
昭和 44 年 12 月	「丹後機業振興対策 5 力年計画」を策定
昭和 45 年 8 月	組織変更（丹後機業振興対策室を設置、1 室 2 課 4 係制に再編）
昭和 47 年 6 月	名称を「京都府織物指導所」に変更、染色棟を竣工 組織変更（技術課の 2 係制を廃止、主任研究員制に再編） 技術員駐在所を廃止、加悦谷分室を設置
昭和 50 年 6 月	組織変更（丹後機業振興対策室を廃止、2 課 1 分室制に再編）
昭和 50 年 11 月	創立 70 周年記念事業実施
昭和 52 年 11 月	与謝郡加悦町算所（現 与謝野町）に加悦谷分室を改築移転
昭和 60 年 10 月	創立 80 周年記念事業実施
平成 4 年 8 月	加悦谷分室 20 周年記念事業実施
平成 7 年 8 月	創立 90 周年記念事業実施
平成 12 年 3 月	機械金属試験室を増築
平成 12 年 4 月	名称を「京都府織物・機械金属振興センター」に変更 組織変更（機械金属課を設置、経営課、織物課、加悦谷分室の 3 課 1 分室制に再 編）
平成 17 年 4 月	組織変更（加悦谷分室を本所に統合、経営室、織物室、機械金属室の 3 室制に再編）
平成 17 年 11 月	創立 100 周年記念事業実施
平成 20 年 4 月	組織変更（経営支援業務を（公財）京都産業 21 北部支援センターに移管、企画連 携課、技術支援課の 2 課制に再編）
平成 20 年 9 月	京丹後市峰山町荒山（丹後・知恵のものづくりパーク）に移転
平成 20 年 10 月	丹後・知恵のものづくりパークオープニング式典開催
平成 27 年 6 月	創立 110 周年記念事業実施
平成 31 年 3 月	丹後・知恵のものづくりパーク機能強化（人材育成・新産業創出）整備実施
令和 7 年 10 月	創立 120 周年記念事業実施予定

**令和6年度 業務
概要報告書**

令和7年7月

京都府織物・機械金属振興センター

〒627-0004 京都府京丹後市峰山町荒山 225

(丹後・知恵のものづくりパーク内)

TEL:0772-62-7400

FAX:0772-62-5240